

技術と社会部門 2012 年度部門賞 部門功績賞受賞者挨拶

2012年度部門功績賞を受賞して

堤 一郎(産業技術歴史文化研究所)



写真提供 黒田孝春 氏（長野高専）

2012年12月7日、イギリス北東部にあるニューカッスル大学ビジネススクールで開催された「経営と技術移転に関する国際会議: ICBTT2012」において、本部門の功績賞を受賞いたしました。大変名誉ある賞を戴いたことに対し、心から感謝を申し上げます。

贈賞の理由は、部門長就任後に「機械遺産認定」に関わり本学会事業の一つに定着させる基盤を構築したこと、ICBTT2012の開催と運営に長く尽力したことの二つになっていました。いま改めて振り返ると、これらに関わっているときはその活動が会員各位に還元され、社会的にも評価され、最終的には皆様にとって有意義な成果につながることを考えながら進めてきました。戦前よく言われた「滅私奉公」ですが、私たちの年代には生き方の規範としてまだ残っており、家庭では祖父から常に言われてきたものです。

そして担当委員としてともに活動を担ってこられた皆様のご協力とご配慮を忘れることはできません。今回の受賞は皆様のご支援なくしては存在せず、改めてここに深謝申し上げます。

功績賞は私のほかにもう一人、リバプール大学から同大学に赴任されたJ.F.ウイルソン教授も受賞されました。長くICBTTの開催をイギリス側で担当されたキーパーソンで、彼の受賞をととても嬉しく思っています。表彰会場にはイギリス国立鉄道博物館のA.J.スコット元館長もおいでになり、二人の受賞を喜んでくださったことも印象的でした。スコット氏は開催校の大学院修了生で、ICBTT2012のために特別講演をしてくださいました。

この度の受賞を新たな契機として、微力ではありますが本部門のさらなる充実と発展につながるよう努力したいと考えておりますので、今後ともご指導をお願いいたします。

末尾になりましたが、星 朗前部門長はじめ関係各位に重ねて感謝を申し上げ、本稿の結びといたします。

日本機械学会技術と社会部門ニュースレター: <http://www.jsme.or.jp/tsd/news/index.html>

日本機械学会

技術と社会部門ニュースレターNo.29

(C)著作権:2013 一般社団法人日本機械学会 技術と社会部門